平成30年（2018年）
4月11日（水）
第１号

教育委員会たより

シャイニング

文責
伊平屋村
教育委員会
金子　智彰

平成 30 年度
伊平屋村教職員辞令交付式開催

四月五日（水）、伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、平成三十年度伊平屋村教職員辞令交付式が挙行されました。

本年度は新職員二十六名が赴任し、三名の教育委員より辞令が交付されました。辞令交付式の後の教育長あいさつでは「子ども達へ多くの種をまくべき専門家になって欲しい。」というお願いと激励がありました。村教頭会長の垣花智昭伊平屋小学校教頭の歓迎の挨拶では「『島発ち』を見据えた様々な取組についての紹介」、伊礼幸雄村長の激励の挨拶では「子供達の意識の変容」への期待が語られました。また、管理職を代表し、安慶田正人、野甫小中学校長からは「学校・保護者・地域が一体となった学校経営」、田中聖子、伊平屋中教諭からは『私達は何ができるのか？』の論から『私達は何ができるのか？』と常に問いを持ち、取り組むと決意表明を頂きました。

ところで、新職員の皆様には、島での職を全うすることや一村民としての地域に積極的に溶け込むこと等、先を見通した計画と実践を切望致します。また、伊平屋島の子ども達の実態を捉え「気付き・考え・行動する」教師であることを強く期待したいと思います。

教育委員会は、諸先生方を大いに支援し、共に手を携えながら学校教育、社会教育に邁進していく決意です。『人材を以て資源となす』の教育理念に向け、今年度も大胆で思い切ったご施策を行います。これまで同様、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

【式次第】

1　開式のことば　（教育課長）
2　辞令交付　（教育長）
3　教育長あいさつ
4　歓迎のことば　（垣花教頭）
5　激励のことば　（伊礼村長）
6　決意のことば　（安慶田校長）
　（田中教諭）
7　閉式のことば　（教育課長）

教育委員・事務局員紹介

沖縄県　最北端の島
てるしのの島へ　ようこそ

和

「教育長講話」

伊平屋村教育委員会
教育長　東恩納　吉一

～教師として伊平屋の子ども達にすべきこと、求めること～

辞令交付式後、全教職員及び教育委員会職員対象の「教育長講話」が開催されました。

「書に学ぶ　人に学ぶ」「組織で仕事をする」「仕事を通した人間関係づくり」について熱く語って頂きました。

教師自身のゆとりや知的好奇心が子供達の視野を広げ、村の教育推進事業を通して子どもを育てることになることを例を挙げながら説明されました。

地域、保護者、島の子ども達、教師への思い溢れる言葉に、聖職としての責務と使命感を感じずにはいられない時間となりました。

教育長講話　教職員感想

○島発ちを目前にした生徒達にすべきことが具体的に描けました。島の子ども達一人一人が学んだ経験は、島の未来の財産になると私は確信しています。だからこそ、我々教師の担う責任と影響は島にとって重要だと考えます。

○非難を恐れず。信念を持って突き進む。思いっきりやる。明るい職場作りをみんなでやる!!

○私の教育が子ども達の将来を大きく変えるということを常に自覚し、子ども達と本気でぶつかっていけるよう常に学び続け、子どものために努力を惜しまない教師でいる覚悟です。

○本音で語る姿に最大の歓迎の言葉が入っていたと思います。広い視野を持ち、世界を見据えるにはまず足下から日々の生活の中に繰り広げられている小さな宝を見つけ磨き、実になるようにつなげていきます。

村教育施策説明（島発ち教育推進事業）

本村ならではの施策として取り組んできている子どもの将来を見据えた教育活動（「ディズニー研修」「ライフスキル教育」「東大塾」「てるしの塾の充実」等）の説明がありました。

深く聞き入る先生方でした。

昨年度までの成果や課題を再度踏まえ、今年度の幼児児童生徒の実態に即した事業展開を行政・学校との連携の中、推し進めていきます。

村独自の特徴ある取組にじっと耳を傾け興味